

茨城県立消防学校・核燃料サイクル工学研究所核燃料物質輸送事故合同訓練見学会

〔訓練の目的〕 日本原子力研究開発機構 核燃料サイクル工学研究所と茨城県立消防学校との共催による緊急時対応の強化及び相互の連携強化

〔開催日時〕 令和5年1月27日（金） 13時00分～15時30分

〔開催場所〕 日本原子力研究開発機構 核燃料サイクル工学研究所 構内道路

〔訓練参加機関〕 茨城県立消防学校 特殊災害科
日本原子力研究開発機構 核燃料サイクル工学研究所
輸送事業者

〔見学会参加者〕 協定加盟3事業所から5名（他機関の見学者も含め全体で約30名）

〔訓練見学会概要〕

核燃料物質を積載した車両が国道を走行中、合流してきた乗用車が積載車の左側前方に衝突した。この衝突により、乗用車の運転手は運転席とハンドルに挟まれて脱出できない状態となった。また、乗用車のエンジンルームから白煙が発生したとの想定のもと、緊急時対応における消防隊、輸送隊及び支援要員相互の連携を確認・強化する訓練が行われた。

訓練は、積載車と関係車両が衝突直後に路肩へ緊急停車した状態から始まった。

輸送隊は、状況確認後直ちに警察、消防及び輸送実施本部に通報するとともに、負傷者（2名のうち助手席にいた1名）の救出、初期消火、輸送物の損傷状況確認等の初期活動を開始、立入禁止区域を設定した。後続していた支援要員が合流し、事故現場の線量率測定や汚染管理用資機材の配置といった放射線管理活動を開始した。

消防隊は、事故現場に到着して状況説明を受けた後、サーベイメータで放射線状況を確認する支援要員の先導により立入禁止区域内へ進入し、車両からの運転手の救助及び消火活動を行った。輸送隊は、消防隊員及び救助された運転手に対し、立入禁止区域境界での身体汚染検査を行った。

その後、輸送物の放射線状況の測定により、原災法に該当する事象ではないことが確認され、訓練が終了した。

消防学校学生を2班に分け、一連の訓練（約30分間）を各班1回ずつ行った。



消防隊の立入禁止区域進入



救助活動と線量率測定



消防隊への身体汚染検査